

〜The Great Luck 音声 8〜

こんにちは、佐藤文昭です。それでは今からですね、追加の音声を収録していききたいと思います。今日のお話はですね、本の中でも書かせていただきました。弥勒菩薩様の「ミロク」というと、369 という数字が出てきますけども、この 369 という数字は結構、世の中的にも注目している方がたくさんいらっしゃって。ニコラ・テスラさんなんかも、3 とか 6 とか 9 がつくお部屋に泊まったりとか。いろいろとその数字にまつわるお話がたくさんありますよね。

例えば、私はインドの神様もすごく好きですが。ブラフマー神・ヴィシュヌ神あとはシヴァ神っていう三大神も 369 とよく言われますね。ブラフマー神は創造の神として 3 で、ヴィシュヌ神は維持をする神様として 6 で、シヴァ神っていうのは破壊神として 9 という数字を用いたりもしますけども。

今日はその 369 という数字を使って世の中に起こる現象、自分自身に起こる現象をより明確に捉えられるように言語化を試みたいと思うんですね。

あなたの愛は「無償」ですか、それとも「条件付き」ですか？

といいますのも、いただくご質問の中にはですね、例えば、子供をどうしても叱ってしまふ、怒鳴ってしまふ、怒ってしまふという悩みを持たれている方もいらっしゃるんですけど、そういう方にお話しさせていただいている内容でもあるんですけど、本人としては怒りたくなくても怒ってしまふのですね。それをどうしたらいいですかっていうような、お話なんです。

極論を言うと、怒ってる、怒鳴っている自分っていうものは、子供が自分の理想としていない姿ではないから怒っていたりするわけですよ。自分の理想にかなっていない姿だから、本当はおとなしくて、誰にでも優しくして、いい子であれば怒らない。でも、そうでは

ないから怒る。そういった現象は他にもたくさんあると思うんですけども、そういうことだと思っんですね。

その怒るっていう現象を一つ捉えた時にもですね。その理想とする子供になってくれたら、愛しますよっていう裏返しでもある可能性があるんですね。それは無償の愛とは言わず、いい子だったら愛しますっていう条件付きの愛っていうことになってしまっんですね。

本来、子供というものは無償の愛、自分の子供というものは無償の愛としてどんな姿、形、性格、どんなものであっても、すべてを受け入れて愛しますというものの自体が、本来の愛という姿ですよ。でも、その怒ってしまうということは、本来の自分の理想の姿ではないものを見せられているから、それに対して怒ってしまうことが起きていると思っんですね。

人生の階梯… 0 から 10 へのステップ

ここで、その 369 というものを使って、お話をしていきたいと思うんですけども。これは私の考え方なので、これがすべてというわけではないんですけども、考え方として 369 というね。徐々に上がっていく。これは先ほど言った、シヴァ神、ブラフマー神とか、そこから辺のお話とはちよつと変わりますね。別のお話だと捉えてください。369 はつまり 0 から 3、そして 6、そして 9 っていうふうにステップアップする。で、最後は 10 っていうものがある。10 の段階のうち、0 から 3、3 から 6、6 から 9 というステップがあるよつていうイメージを、まず持っていたきたいんですけども。

これも本の中で書かせていただいた内容ですけども、起きた現象に対して、自分はど
う捉えるかっていうゲームをしましょうつていう、お話もさせていただいてるんですけども、それをこの音声ではより分かりやすく解説したいなと思つているんですけどね。

起きている現象に対して文句を言っているっていうことは、それは不満、そういう不平不満であつたりとか、そういうふうに捉えてしまっているっていうことですよ。それはある意味「ゼロ」っていうポジションなんですね。自分の中で何も想像も考えもせず起きた現象をそのまま捉えてしまっている。ミトコンドリアの感情のままに物事を捉えて動いてしまっている段階っていうのは、「ゼロ」の段階なんですね。

ステップ 1 【3】 .. 不平不満を言わないと決める

じゃあ、その一つ上のステップに上がるということは、3に上がれるってことですね。つまり、起きている現象に対して、不平不満であつたりとか、文句を言わないっていうステージに上がるんですね。それで3というステージに上がります。不平不満を言わないんですね。起きている現象に対して、同じ現象ですよ。同じ現象にもかかわらず、文句が出るということは、自分自身のおごりだ、自分自身の理想とする現実になっていないから、イライラしているんだっていうふうに。

では、自分の理想としている現実っていうものは何なの？っていう話になるんですね。それは自分本位な考え方が原因なんですね。もちろん子供のしつけとしてね、人が嫌がることをしちゃいけませんとかね。本当にそういったしつけというものはいいんですよ。ではなく、そういうものではないところでイライラしてしまうっていうのは、本来の自分の理想としている子供ではないから、イライラしてしまっているわけですよ。

じゃあ、その理想とする子供っていうものは、一体それは本当にすべて正しいのか？というところを考えてみるべきなんです。子どもが勉強しない、だから怒るっていうのも、じゃあ、勉強をするという行為自体が正しいかどうかというところをしっかりとまずは認識してみる。

自分自身が子供の頃に例えば、もっと勉強しとけばよかったと思って、子供にちゃんと伝えたいという思いで言っているかもしれないけれども、結局自分も大人になると勝手に成長してね。で、勝手にどんどん人間というのは成長していくものですよね。で、社会に

出て、しっかりと仕事をして、生活をする。というのはみんなやってきてるんですよね。どんな子供であろうと。

だから、そこまで心配せずに、あるがままの子どもを愛するっていうポジショニングで、そういう不平不満を言わない、怒らないっていうものをまずは決めるんですね。その決めた瞬間に3っていうくらいまで上がるんですね。

ステップ2【6】..すべての経験は「幸せ」につながっていると知る

そこから次なるステップとしましては、そこに幸せを感じるっていうことですよね。幸せを感じる。ありがとうとかね。本当にそういう、子供がいてくれて、自分はすごく嬉しいとか。今は子育てのご質問が来たという部分からのお話なので、今は子供を中心とした話にしてしまってますけれども、さまざまなことと言えるんですね。

起きた現象に対して、同じ現象に対して文句を言うのか、それともそういう文句を言うことをやめるのか、やめた上で尚且つ、そこに幸せを感じられるのかっていうね。そこが今のツーステップ目ですね。ツーステップ目の話までいってます。それが6という段階ですね。

その6という段階まで行くと、起きた現象に対して幸せを感じることができる。そうすることによって、私は本当に幸せだというふうに感じる事ができるんですね。起きた現象に対して、そのように考える癖をつけるっていうことですね。これも、本の中で何度もお伝えしているんで、分かっているよっていう方ですね。本当にたくさんいらっしやると思うんですけども、改めて、音声でお伝えすると、そういう起きた現象に対して自分はどういう捉え方をすると幸せだというふうに捉える癖をつけられますよね。

ステップ3 【9】 ..どんな絶望の中にも「感謝」の光を見つける

これがツーステップ目、そしてスリーステップ目の9という段階まで上がれるものとしては、それはそこに感謝を湧き立てるというかですね、感謝を伝えられるっていうことです。その起きた現象に対して感謝を伝えられる。

例えば、私自身もたくさんありますけれども、傍から見たら大変な状況、大変なことが起きているんだろうというふうに捉えられることでも、そこには必ず感謝というものが含まれているんですね。感謝があって感謝をすること、感謝ができることがたくさん含まれているんですよ。

病気一つとってもですね、病気をすることによって、さまざまなものに感謝できますよね。看病してくれる家族に感謝ができるかもしれない。免疫っていう部分ですよ。ミトコンドリアも頑張りますから、そういう時は熱を上げてね、病原菌を殺すわけですよ。そうやって、体自体に感謝をすることができるかもしれない。自分がベッドで寝込んでい

ても、しっかりとね、ご飯も食べさせてもらえて、生活ができることに感謝ができるかもしれない。

だから、本当に起きた現象に対して、どう感謝できるかっていうふうに捉えようとするんですね。そうすると、その最終段階の9っていうステップまで行くことができるっていうことですね。

最後のステップ【10】..他者から「感謝される」存在になる

でも、最終的にやはり、さっきは10っていうねえ。10段階のうち、今は369と弥勒っていうステップを歩んでいく中で、じゃあ残りの1っていうのは何なの？っていう話になると思うんですね。

その残りの1つっていうものは、これはそうですね、自分が今度はそういうふうに感謝をされる立場になるっていうことだと思っくんですよ。感謝をされる立場になる。だから弥勒として登って行って、最終段階でその弥勒の9つっていうものを何度も体験するんですね。

出来事というのは1つじゃないので、何か起きた、そしてそれに対して文句を言っていた自分がいた。じゃあ、文句を言うのをやめようっていう自分がいる。そして、そこに幸せを見いだそうとする自分がいる。そして、そこに感謝をしようとする自分がいるっていうふうに、弥勒で登ったわけじゃないですか。弥勒で登って、その9まで行ったらまた違う現象が起きるので、起きた段階でまた弥勒で登っていくと、また起きる。そしてまた弥勒で登っていくっていうように、どんどん繰り返していくことによって、人はつまり、常に9つっていうステップ、9つっていう段階で生きられるようになるんですね。

9つっていう段階で生きられるようになってくる人間っていうものは、傍から見たら、ものすごく光って見える。感謝だけで生きている人ですからね、光って見えますよね。そう

すると、その人と一緒にいるだけで幸せに感じる事ができるんですね。感謝をしたくなるんです。つまり、その人自身の最後のステップである残りの1が埋まるんです。

そうすると、その人は10というねえ、部分で生きていくっていうことにつながるんですね。

「弥勒」をキーワードにステップを上げる実践法

なので、この弥勒という、³⁶⁹というステップを常に自分の中で意識しておく。こういう言語化しておくんですね。そのように今、この音声で言語化したんですけども、そういうったように言語化しておく、何かにイライラした時っていうのはゼロですよ。

イライラした、文句を言った、不平不満を言った時っていうのはゼロなので、もう上がるだけです。上がるしかない。3も6も9もあるので、上がり放題じゃないですか。そんな楽しいことないですよ。

だから、何かそういう現象が起きた時には、すぐに弥勒を思い出すんですね。弥勒を思い出して、まず3からやってみる。文句を言ってた自分をやめてみる。そして6に行く。そこに幸せを見い出してみる。さらに、そこに感謝を見い出してみる。で、9になる。それを繰り返すということですね。繰り返していくうちに、自然と残りの1である、他から感謝されるようになるっていう自分に、いつの間になってるんです。

その残りの1をされた瞬間に、本当の幸せに気づくっていうことですね。感謝される自分になった瞬間に、本当に幸せだなあっていうことに気づくんですね。だから、それはね、他人から感謝をされるということは、自分では一切コントロールができないんですよ。ただ、弥勒はコントロールできます。自分でできるわけですから、自分で見いだすわけですから。

だから、常に自分でコントロールできる範囲の弥勒を常にやり続けるんですね。常に回し続ける。自分の中で。そうすると残りの1っていうのはもう必然的に起こります。後々

ですね。すぐに起きないかもしれない。でも、それを繰り返していくうちに起きるんですね。なので、弥勒を繰り返していく。

だから、何か起きる現象でイライラしたっていう時にはすぐに、弥勒っていうふうだね。キーワードとして、頭の中に入れておくことによって、そのステップを歩みやすくなると思いますので、ぜひね、これからの人生で何か文句を言いたくなったりとか、愚痴を言いたくなったりとか、怒りたくなったりとかしたときには、すぐにその弥勒っていう言葉を思い出して。369 というステップを歩んでみてもらえたら、すごく嬉しいなと思います。

結びの言葉

ということ、すごくシンプルなお話だと思うので、本当に実践しやすいことだと思います。でも、これは本当に人生を大きく左右する、大きく変える、大きく飛躍させる、大きく光り輝かせるお話だと思いますので、もし、何か響くものがありましたら、ぜひ、実

践していただけたら嬉しいなと思います。では、本日の追加音声を以上で終わりたいと思います。最後までお聴きいただきましてありがとうございます。